

2012年12月11日
分子生物学会

科学的根拠のないバイアスを理性的・
意識的に排除する

塩見 春彦

Haruhiko Siomi
Keio University School of Medicine

“Glass ceiling” (1970’s)

invisible barriers that block the upward mobility of women in the workforce

“Leaking pipeline” (2000’s)

under-representation of women, especially at senior levels, in science
(women dropping out of science instead of moving up the career ladder)

“Invisible web”, “Walking on eggshells” (2010’s)

you should walk on eggshells if that would help you avoid making
statements or judging people based on “latent bias”

横行している科学的根拠のないバイアスを「理性的・意識的に排除する」

Unintentional, latent, subconscious bias
故意でない（何気ない）、潜在意識の偏見／先入観

「家事、育児は女性の仕事」
「研究は男性向き」

隠されているメッセージ：

（男性側の）優位にある事を心地よく思う気持ち

(6) 慶應義塾における「仕事と家庭生活の両立の推進」、
 (男女共同参画に対する意見・要望)(自由回答)

①本塾における「仕事と生活の両立の推進」「男女共同参画」に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

| | | | | |
|----|-----|---------|----|---|
| 助教 | 信濃町 | 40～44 歳 | 男性 | <p>男女は平等だが同質ではない。女性には出産、育児という非常に大切な仕事がある。逆に男性は出産ができない。出産、育児はある意味、医学研究より大切な一大イベントであり、決しておざなりにすべきではないと考える。昨今、仕事のために育児の手を抜くことがステイタスになりつつあるが、これはナンセンスであると考える。当然父親の育児参加は非常に大切であるが、父親の育児と母親の育児はこれも異なるものであり、またそうあるべきである。子供は父親と母親を明らかに区別しているからである。女性は育児をすべきという古風な考え、ととらえるのではなく、女性は母親としての育児をすべきであり、<u>父親のようにたまにガツンと怒ったりするのみでその役割を果たせるものではない</u>。仕事も重要。しかしながら母親をきちんとすることはもっと重要なのではないか。日本の将来がこれにかかっているのである。私は乳児を保育所に預けてまで仕事を続けることはよくないと思う。そのために育児休暇をより長期的に設定し、例えば子供が幼稚園に入園した時点で仕事復帰がスムーズにできるなど、より長期的な展望が必要であると考え。子供－母親のコミュニケーションの基礎はこの時期にこそ形成されるのだ。愛情不足の子供たちが思春期を迎えて非行に走る例を多く見かける。その原因こそ育児の手を抜くことに形を変えたこれは育児放棄なのである。</p> |
|----|-----|---------|----|---|

| | | | | |
|----|----|---------|----|---|
| 教授 | 矢上 | 40～44 歳 | 男性 | 教員の場合は適宜仕事と家庭生活の両立を自らするしかないかと思っています。子供はまだ小さく、 <u>妻も自分の手助けを必要としているので、仕事一辺倒にならないよう考えています。</u> |
|----|----|---------|----|---|

(6) 慶應義塾における「仕事と家庭生活の両立の推進」、
 (男女共同参画に対する意見・要望)(自由回答)

①本塾における「仕事と生活の両立の推進」「男女共同参画」に対するご意見・ご要望をお聞かせください。

| 職位 | キャンパス | 年齢 | 性別 | |
|----|-------|--------|----|---|
| 教授 | 三田 | 45～49歳 | 女性 | 男性の有給を進める。→モデルとして広く社会へ告知する。 |
| 教授 | 三田 | 50～54歳 | 女性 | プログラム、センター設置の有無にかかわらず、塾の方針として同様の事業は継続してほしいと思います。それが優秀な女性教員の育成には不可欠だと考えます。 |
| 教授 | 三田 | 55歳～ | 女性 | ワークバランスは女性のみの問題ではありません。 <u>男性側が自分達もバランスがとれていないことに気がつくべきだし、そのような啓蒙活動が必要だと思います。</u> |
| 教授 | 三田 | 55歳～ | 男性 | 貴センターの活動について全くというほど知りませんでした。学生の男女比と比べ教員の男女比を見ると、相当に男が多いと思います。大きな社会システムを動かす1つの歯車となるよう貴センターの活躍に期待します。 |
| 教授 | 三田 | 55歳～ | 男性 | 残念ながら私は女性ではないので何を望むかは分かりません。 |
| 教授 | 三田 | 55歳～ | 男性 | 大変重要なテーマなので、今後も何らかの形で継続が望まれます。 |
| 教授 | 三田 | 55歳～ | 男性 | 男女共同参画の基礎の上にはじめて「学問の自由」があることを今後も継続的に訴えて行くことを望む。そのためのソフト・ハード両面の整備計画を当局として立て着実に実施していくべきである。 |

| | | | | |
|------|----|---------|----|--|
| 教授 | 日吉 | 45～49 歳 | 男性 | 2 つを一緒にする事が問題だと思う。 |
| 専任講師 | 日吉 | ～29 歳 | | 「5.」(※注:学生保育サポーターによる一時保育サポート(SFC:コガモの巣))は他キャンパスにも設置されると良いと思う。 |
| 准教授 | 日吉 | 40～44 歳 | 女性 | 男性(教職員のみならず学生)の意識を変える必要がもっとある。理論のお説教ではなく、飲み会でのお酌役や普段のお茶入れ・食料調達を女性(女子学生)の役割だと決め付けている慣行がセクシャル・ハラスメントにあたるということの具体例をあげて説明する機会を設けるべき。また、会議を夜に設定したり、泊り込みの仕事、土日の仕事もなるべくやめていただきたい。完全には無理だろうが、全員が定時に帰宅出来れば、全般的状況は著しく改善するだろう。育児休業を男性が取り、それを塾内で広報することは出来ないだろうか。男女共同参画について、女性の意識は高いけれど、男性の意識が低いというえ家事・育児への参加が少ないと思う。家庭生活にもっと参加したいけれど出来ない男性もかなりいるはずである。男女共同参画という理念自体は十分に浸透している(特に女性の間)ので、あとは男性の意識がもっと高まり、男性もプライベートにもっと時間とエネルギーを使えるようになれるかどうか、今後の問題だろう。 <u>男性の状況が変わることにより、女性の状況も大きく変わるはずだ。</u> |

「理系だと就職／結婚できないので、
娘が理系（医歯薬系を除く）に行くことは
反対だ」

日本国憲法23条 「学問の自由は、これを保証する」

日本文化には個人の自由がない!?

研究者には、研究を行う権利と研究を邪魔をしない義務がある

女性研究者を増やすために

1. 自然科学に興味がある子供、学生を元気づけ、
励し、導く
2. 既に自然科学分野にたずさわる若手研究者に
お手本 (role model) を与え、継続する
(降りない) ように元気づけ、励し、導く
3. ステレオタイプを押し付けない

私たちのコミュニティが正面から取り組まなければならないこと

1. 私たちが持っているこのような偏見を認め、それを乗り越えることが
私たち全ての利益となる

2. 自然科学的な考え方：論理的かつ定量的に考え、実証に基づいて自分なりに結論を導くという（普段私たちが実践している）考え方が私たち全ての利益となる

“We have to recognize that group averages cannot be applied to individual members of the group, and that individual behavior does not necessarily imply that all members of the group share said behavior”

“Scientists should judge their colleagues on the basis of direct professional interactions rather than applying averages and stereotypes”

横行している科学的根拠のないバイアスを「理性的・意識的に排除する」

自然科学分野の評価の在り方：ピアレビュー “Peer review”

-研究者仲間や同分野の専門家による評価や検証-

本来的なピアレビューが機能していれば
(内部告発にまで至らないはず)

「女性研究者にどんどん良い研究をしてもらいたい。
一方で良い研究をしている人ほど各種委員会、役員、
審議会、オーガナイザー、その他雑用がどんどん押し
付けられる。その結果、逆に研究が進まなくなるので、
女性研究者には、このような役職や雑用の負担を軽減
または免除すべきである」

「女性研究者にどんどん良い研究をしてもらいたい。
一方で良い研究をしている人ほど各種委員会、役員、
審議会、オーガナイザー、その他雑用がどんどん押し
付けられる。その結果、逆に研究が進まなくなるので、
女性研究者には、このような役職や雑用の負担を軽減
または免除すべきである」

No!!

女性が意思決定に参画できるポジションにいないと
なにもかわらない!

女性が意思決定に参画できるポジションにいない
- 大学（社会）が変わらない -

Judith Rodin

The first permanent female president of an Ivy League
university

(University of Pennsylvania, 1994-2004)

Ivy League

8大学の内、現在、5大学で女性学長がリーダーシップを発揮

Christina Hull Paxson Brown University
Carol L. Folt Dartmouth College
Drew Gilpin Faust Harvard University
Shirley M. Tilghman Princeton University
Amy Gutmann University of Pennsylvania